

私の聞法、よき師

平成24年7月68歳、中仏通信部学習課へ入学致しました。お仏壇やお墓を扱う仕事でありましたので、仏教のことを少し詳しくなれば、役に立つかな？程度の気持ちで入学いたしました。

わからぬという話。もう一つはその光に照らされ、育てられると、卵の殻の内に閉じこもっている私を親鳥が抱いて暖める(光に教え、よき師、よき友などのご縁)と殻が破れ、ヒヨコとなつて大きな、広い、世界へ出る事ができる。「殻の中からなるとしても出してあげる」と言うのが如来の悲願である。その大きな広い世界(悟り)へ出るための方法論があるのが浄土真宗であるという話でありました。

寺の「歎異抄に聞く会」と2回も聞法できる身となりました。情けないことに、先生はこの他に宇佐と中津のお寺さんで法話をしています。その会座には少し遠い(2時間ぐらい)というだけでいいません。先生は医者としての自分の仕事が終わったあとに、大分、別府どちらか一人でも運転し、お茶の一杯も飲まず、教え説き、雑談もなく、質問がなければ、又、お茶も飲まず、自ら運転して帰ります。それなのに私は少し遠いというだけで、行つていません。会座には月に四度行けたら理想的である」と細川先生(田畑先生の師)が書いてあるのを見た上でのこの情けなさです。

るくなつてきたように感じます。田畑先生に出遇えて、仏法を聞かせて頂いたおかげで、人生の方向は自分の分業でなく(仏様を中心にした生活をさせていた)と決まったような気がします。先生は、今まであたりまえだと思っていたことが、実はあたりまえではなかったという気が付きました。そのこのへの感謝、ものそのものが単独であることはない、その背後にあるものをみないといつもいつも教え下さいます。本當にすべてあらゆるものが、因と縁によつてあるとき々思えるようになってきました。

(世界)が広がり法友(よき師、よき友)を賜りました。積極的な聞法生活において如来より賜るご褒美だと細川先生より聞かせて頂いたと光明団の会座に出たとき聞かせて頂き、本當にそうだとうなずけました。さて紙面がなくなつてきました。最後に、真宗は称名念仏が行であると教えて頂き、空念仏でもいいから初めよと聞きまして、朝、起きて、6時半ごろ一分間、念仏を称えています。先生と遇つて少ししてからだと思つたので4年ぐらいでしようか、今日で1230回を越えたくらいです。そのあと、勤行(正信偈、六首和讃、)正信偈の2句づつの勉強をしています。継続一貫、細川先生の教えです。森町 渡辺

御誘い(積極的聞法) 毎月一回、聞思会の午後の部十三時より 細川先生の「歎異抄購読」を輪読して頂きます。なんの規則もありません。ご参加、お待ちしています。

「私の聞法10年」

私は、田畑正久先生の「歎異抄に聞く会」で、教えを頂いて、13年程になります。

来たのではない。本當は、親鳥に抱かれて、熱を受け、ひよこに成るためである。ひよこに成ることを、禪では悟り、浄土教では信心を頂くという」と言う様な教えを、繰り返して、お話し下さいました。

題です。「念仏申しそうらえども踊躍歡喜のころおろそかにそうろうこといかにそうろうべきことにてそうろうやらん」との問いです。その時の、親鸞聖人のお答えは、とても、とても、味わい深いです。

(きくち ますみ) (元カナダ開教区開教使) 気がつけばお念仏を 「先生、結局お浄土も天国も同じところなんですよね？」 カナダで開教使をしていた頃、お寺で毎週催されていたシアカラオケクラブに來られた日系2世の男性から、このように問われました。

の天国は、その性質も違ふし、そこへ行く方法も違ふという事、もっと言えば、阿彌陀さまと神さまは性質が全く違うことを思い切つて伝えました。その違いを聴きにお寺にお参りくださいとお見送りしたのですが、やはり落胆されていました。帰国後、そのことがいつまでも頭から離れなかつたので、龍谷大学の大学院で指導を受けていた先生に質問させていただいたところ、「このいのち終つたあと、すぐには会えなくても、いつかは浄土で出会えます。阿彌陀さまが必ずすべての衆生(しゅじょう)を残らず浄土に生まれさせますとお誓いなんですからね。それに浄土の時間は人間が感じる時間と違いますから、会えない時間もほんの瞬間ですよ」とお答えくださいました。

田畑先生にお会いして最初の質問が、「お念仏を一日中称えれば、心がスツキリとして、安心を得ることが出来る様になりますか。」でした。その時、先生は「それだけではおそらく無理でしょうね。私達は、必ず(老・病・死)に捕まります。それは確かです。まず、聞法を続けてみて下さい」と仰られた様に思います。それから、毎月一回の聞法会は、ほとんど欠かさず出席致しました。先生からは、「歎異抄」を通して、「浄土の教え」について、解り易くご指導を頂きました。

でもその時、私は、その教えを自分自身の問題として、受け止めていませんでしたので、本當に、この教えが私の心の救いになるのかしら・・・という疑問が、残り続けました。いく中で、ある時、私が求めていた救いと、仏法が本當に教えて下さっている救いとは、根本的に違つていた事に、やつと、やつと気付かせて頂いたのです。

私が求めていた救いは、まさに、卵の殻の中の欲望を満たす救いであり、本當の救いではなかつた事にきづかせて頂いたのです。本當に、本當に、遅々たる歩みです。しかし、その時、転回出来たのかというと、そうではない様に思います。それは「歎異抄」九章の間



天国と浄土

本願寺新報 2015(平成27)年2月1日号掲載

大見出しを入力します

小見出しを入力します

白抜き2行の
見出しです



絵解き (キャプション)



絵解き (キャプション)

白抜きの見出しです

この枠は2行
入力できます

この枠は2行
入力できます